

東洋大学は歩き続けます



学校法人東洋大学
理事長

長島 忠美

東日本大震災により、多くの命が犠牲となり、日本中が大きな悲しみにおそわれました。心からお見舞いを申し上げます。我が東洋大学は、こんな時だからこそ尚更、学生の学ぶ場所を守る覚悟を持ち、入学式を予定どおり挙行いたしました。

どんなに大きな災害であろうと学生が夢に挑戦できる場所を奪われるべきではない。必ず、日本の復興のため、今を学ぶ学生諸君の力が要る時が来る。その時のため、一日も早く学びの場所に身を置き、研鑽を積み、自らを高めたい。そんな願いからです。

東洋大学は今日まで多くの卒業生を輩出し、それぞれ社会で大きな役割を担ってきていただいています。そして今創立125周年を迎えようとしています。新しい感性も求められていると思います。それは日本だけではなく、世界に飛躍する可能性を示すことです。

創立者・井上円了先生の掲げられた哲学と時代の求める国際化を共に示しながら、歩んで行きたいと思います。独立自活、知徳兼全の精神を大切に持ちながら、新たな友人を広く世界に求める、そのことが真の世界平和への第一歩だと信じます。東洋大学がその任を担えるよう全力を尽くしたいと思います。

私の生まれ育った新潟県山古志村は雪深い山村です。円了先生のふる里に近い町です。その雪深い山村の先人が、錦鯉を生み出しました。数百年の時を超えて、今では泳ぐ宝石と言われる様になりました。最初は真鯉の突然変異から、地域内で守り育てながら品種を固定して以来、高度成長の時代に日本中に広がりました。そして国際化と共に今では世界各国へ輸出され、NISHIKIGOIがグローバルスタンダードになっています。

自らを信じ、誇りを持ち、歩み続けることが、やがて世界中の人々に必要とされることになるのではないかと思います。気の遠くなる様なことでも、夢に向かって歩み続ける限り、必ず実現できる。東洋大学をそんな大学にしたいと思っています。学生諸君に心から期待をしています。

他者の力となろう



東洋大学長

竹村 牧男

このたびの東北地方太平洋沖地震による被災状況は、まことに想像を絶するものでありました。東洋大学の在学生・卒業生、そして新入生の中にも、被災の苦難を受けた方々がおられます。その方々に心よりお見舞い申し上げます。今も非常に困難な状況にあると存じますが、どうか元気を失わずひるまず、前向きに生き抜くことを願っています。

東洋大学の創立者・井上円了先生は、『奮闘哲学』という著作において、次のように述べています。「人生の目的は活動に外ならないと了解し、それより活動主義をとって、今日に至っている。『活動はこれ天の理なり、勇進はこれ天の意なり、奮闘はこれ天の命なり。』これが私の主義である。すなわち私の使命は、この活動によって人生を向上させることにあると信じている。」(『井上円了選集』第二巻、442頁)

井上円了先生はこのように、現実社会の諸問題に真剣に取り組み、他者のために奉仕し、活動してやまないところに、人間のいのちの本質を見出しています。この井上円了先生の意を汲むとき、東洋大学生の皆さんにはけっして苦難に負けないで、状況が困難であればあるほど努力・精進し、安易に難局を回避せず問題に力強く立ち向かい、どこまでも奮闘し続ける人間になって欲しいと思います。

そして、すでに大学生である皆さんは、自ら主体的に考え・判断し・行動出来る人間になっていただかなければなりません。広く教養を養うと同時に物事の本質を深く考察・究明し、自分自身の哲学を持つことを、真剣にめざしてください。また、大震災を契機に、今後の自分の生き方を深く自らに問い、苦難の中にいる方々のために少しでも力になるには何が出来るかを考えてください。そして近くは日本の被災地域の復興に、将来的には広くアジア、さらには地球社会のより公正で平和で豊かなあり方の実現に大いに貢献されることを期待しています。

今後の日本の復興と、地球社会の発展を担うのは、まさに皆さん自身です。皆さんがこの東洋大学において、真摯にご研鑽なさることを、ひとえに願っています。